ミャンマーにおいて国軍がクーデターを起こしてから1１月1日で９ヶ月が経過しました。クーデター直後は連日、各地で市民による抗議デモ(不服従運動)が行われ、国軍が市民を武力で押えつける、目を覆いたくなる光景が報道されていましたが、ここに来て全くと言っていいほど報道がありません。

ヤンゴン市は時々爆撃があるものの以前よりもずいぶん静かになりました。

ただ、今は民主派は地方の少数民族武装勢力と手を組み「国民統一政府（NUG)」を

結成し、軍に対し9月7日戦闘開始を宣言。チン州、カチン州など多くの州において戦闘が続いています。それによって難民も多くなり、国境を越え隣国へ避難する人々も多くなっています。

 私は昨年2月からコロナ、クーテターで入国出来ず、現地スタッフも里子が住む村までは行くことができません。人を集めることは禁止、ボラティアだとしても資金の出所も調べられます。もし行く途中で見つかったら全て没収でしょう。拘束されるかもしれません。銀行もよく機能していないようです。数々の理由から３００人の里子たちに教育費を授与できずにおります。

普段なら支障なく行われていた授与式ですが、国民皆が大変な中、里子だけに支を・・・となると現段階では授与式への理解は得られないかもしれません。

今出来ることは、子どもたちの衛生環境を整える為にトイレ、手洗い場の建設を進めています。また、医者になった里子が村人１5００人を守りたいと頑張っているクリニックへの支援も行っています。

学生たちにはオンラインて日本語を教えています。いつか日本へ行って

里親のお父さん、お母さんと話がしたいと頑張っています。

「これから国は、自分の人生は、どうなるんだろう、、」不安と恐怖の中、少しでも希望を持つことが出来るよう交流して行けたらと良いと思います。

一日も早い、ミャンマー国の安寧と、国民の安全を心よりお祈り申し上げます。

ミャンマーサポートブラン

代表 吉松栄子